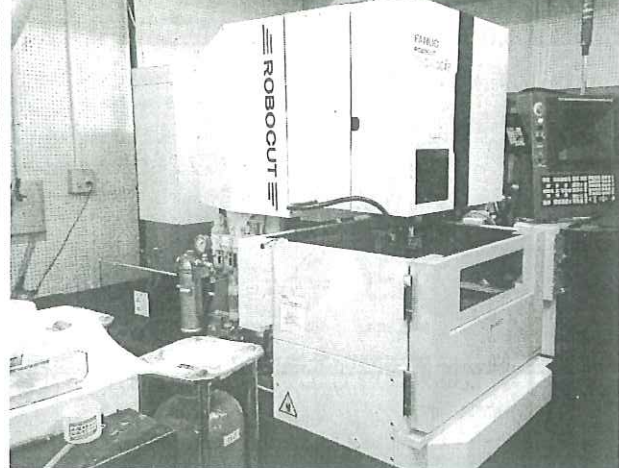


国内外工場で設備増強

ワイヤカッター 放電加工など 装置部品 高精度化

【立川】協栄プリント技研（東京都調布市、小林明宏社長、042・484・2151）は、国内外で生産体制を強化する。本社工場にフナック製のワイヤカッター放電加工機「ロボカッター」などを導入するほか、ベトナム、中国などでも設備を増強する。医薬品包装や食品包装、燃料電池自動車、半導体関連など高度化する製造装置向け部品の生産に対応する。これにより、2018年9月期に売上高を前期比20―30%増やす。



協栄プリント技研が本社工場に導入し稼働したワイヤカッター放電加工機「α-C400 iB」は、温度変化による加工精度の変動を人工知能（AI）の機械学習で予測・制御するオプションを備える。加工精度を高めながら省人化も進め、生産効率を高める。小林社長は国内外の工場にワイヤカッター放電加工機などを導入

「これまでの古い技術から新技術にシフトしていく。新しい仕事を獲得して利益率を高め、常に成長しなければならぬ」と語った。そのほか、本社工場に岡本工作機械製作所製の平面研削盤「PS G63DX」などを導入した。海外ではベトナムの協栄ダイテックベトナムハノイ工場（ハノイ）、中国の協栄模具技研（蘇州）、協栄ダイテックフィリピン（シラグナ）にワイヤ放電加工機やマシンングセンタ―を増設する予定。18年9月期の売上高に対する設備投資比率は10%以上になる見通し。東京都の受注型中小企業競争力強化支援事業助成金も受けた。